



中学生

まちづくり作文

優秀作品の紹介

市内中学生から「地域やまちづくりについて思うこと」をテーマに作文の募集を行いました。応募作品の中から優秀作品として表彰された3作品を紹介します。

※この取り組みは、「三次市まち・ゆめ基本条例」の啓発活動の一環として平成28年から実施しているものです。

優秀作品3作品



左から宮田さん、万束さん、福岡市長、浅野さん

三次町を知って

三次市立塩町中学校

一年

浅野 心絆さん

私は三次市に住んでいるけれど、三次町のことはよく知りませんでした。三次市教育委員会主催の「発信力向上プロジェクト」という研修会に参加したときに、三次町のことを初めて詳しく知りました。

研修会では、三次町の街並みや、十日市と三次町をつなぐ巴橋のことを知りました。また、三次町

は古い建物が並ぶ街並みだと聞いていたけれど、新しく出来た建物もあるなど、初めて知ることがたくさんあって驚きました。一番驚いたのが、二代目辻村寿三郎を襲名された川崎員奥さんの「木綿兔」というお店が三次町にあったことです。「木綿兔」を含め三次町にはたくさんのお宝があることを知り、そのことを多くの人に知ってほしいと思いました。

そこで私は、三次町のお宝について動画にまとめて発信したら観光客が増えるだろうと考え、

動画にまとめました。そして、それをプロジェクト最終日に行われた発表会で地域の方に向けてプレゼンテーションをしました。プレゼンテーションを見てくれた人たちの感想やメッセージを読んだら、動画を見て初めて知ったことも多かったようです。私は「動画を作った目的を達成できた」と、うれしく思いました。

私はこの研修会に参加して、国内外の人々に三次のことをもっと知ってもらい、実際に三次に来てもらいたいと思いました。私は英語が得意なので、もし海外から観光客が来たら、英語力を生かして三次町の魅力やお宝についてたくさん伝えたいと思います。そのため、これからは私自身が三次町のおいしい店や、きれいな景色をもっと見つけて、さらに多くのことを人々に知ってもらおうきっかけにしたいです。

ぼくもこんな大人になりたい

三次市立塩町中学校 一年 万束 勇人さん

ぼくの家の周りには何軒かの家が建ち並ぶ住宅地です。ぼくが小さいころからずっと、この団地の人はぼくを見守ってくれていいます。ぼくの家の前に住んでいる人は、ぼくにサッカーを教えてくれました。母とケンカしたとき、奥に住んでいる人が家に入れてくれました。学校から帰ったとき、団地のみんながいつも、

「お帰り。」

と言ってくれました。団地のみんながバーベキューをするときに、大人の人はぼくたちを優先して食べさせてくれました。通学路に草が生えてぼくたちが歩きにくく困っているとき、その次の日にはぼくたちのために草を刈る計画を立ててくれていたそうです。夏の夜に花火をしたこと、十月の終わりのハロウインのときには、団地のみなさんに何もお知らせをせずお菓子をもらいに行ったこともあります。突然行ったにも関わらず、ぼくた

ちのために急いでお菓子を用意してくれました。

ぼくはこれまでたくさんのお礼をもらい、これが当たり前のようになっていました。しかし今は、ぼくたちのためにしてくれているのだと理解し、温かいこの人たちのところに生まれてきてよかったと思っています。どんな生意気を言っても受け止め、優しく接してくれます。だから、ぼくも将来こんな温かい人になって、今度はぼくが次の世代の子どもたちに優しく接したいです。今ぼくは自転車通学しています。朝、ゴミを出している人、「いつてらっしゃい。気を付けてね。」と言ってもらい、ぼくは、「おはようございます。いつてきます。」と笑顔で学校に向かいます。まちな人に支えられていることが励みになります。ぼくもいつかこんな大人になり、明るいまちをつくりたいです。

まちづくりのためにできること

三次市立塩町中学校 二年 宮田 蒼介さん

みなさんは、まちづくりのために何かしていることはありますか。私は、よりよいまちづくりのために、できることが主に四つあると考えています。

一つ目は「挨拶」です。私は、

地域の人に会った時は、「おはようございます」「こんにちわ」と言ったり、顔を見て会釈をするよう心がけています。挨拶は、相手に礼儀や良い印象を伝えることができ、また明るい雰囲気をつくるので、人と人がつながる第一歩になると考えます。

二つ目は「地域の行事や活動に参加する」です。私の住む地域にも、様々な行事や活動があります。そのような行事、活動に参加することは、地域の活性化になると思います。また、多くの人とふれあうことを通して、コミュニケーションづくりの場にもなります。

三つ目は「地域の生産品を買う」です。積極的に地産地消を推進することで、地域の生産品が増えれば、消費者と生産者が信頼し合えるようになり、経済の循環にもつながります。

四つ目は「SNSでの情報発信」です。SNSで地域の魅力などの情報を発信することで、より多くの人に自分の地域について認知してもらえると考えます。また、他の人が再発信すれば、さらに拡散してもらうことができます。このように、まちづくりのためにできることはたくさんあります。よりよいまちづくりを進めるには、地域の一人一人がその地域の一員であることを自覚し、自発的に行動することが重要です。私も、私の住む地域の一員として、自分の地域に関心をもち、まちづくりに貢献していきたいと思っています。

問 まちづくり交通課自治交通係

082416216395

FAX 082416216235